英文資料から読む西洋人の見た九代目市川團十郎

宮　智　麻　里

〔抄　録〕

九代目市川團十郎の名が海外にも知れ渡っていたということは、彼の名前が英語の人名辞典に掲載されていたという話などからも伺える。しかし、これまで実際の知名度についての検証はされてこなかった。そこで彼が活躍した時代の英米の新聞、雑誌、書籍を収集し、調査を行った。これらの文献からは、團十郎は総理大臣よりも高給を得ている、英国のシェイクスピア俳優、ヘンリー・アーヴィングに似た世界的な名優として扱われていたことが読み取れる。同時に、歌舞伎俳優に対する差別に関する記述が頻出している。本稿では、これらの資料に基づき、團十郎がなぜ名優と言われたのか、彼の何が西洋人を惹きつけたのかを検証する。さらに、西洋のメディアが歌舞伎俳優に対する差別の実態を報じ続けた理由をその時代背景から考証するものである。

キーワード　九代目市川團十郎、ヘンリー・アーヴィング、英文資料、歌舞伎、差別

はじめに

西洋人が歌舞伎をどう見たのかということについては、幕末から戦後までを検証した中村哲郎の『西洋人の歌舞伎発見』がある。多くの文献を網羅しており、九代目團十郎（以下「團十郎」）についても多くのページを割いている(1)。また漆原その子による「九代目市川團十郎年譜」にも西洋人による記録がまとめられている(2)。

團十郎の名が海外にも知れ渡っていたということは、彼の名前が英語の人名事典に掲載されていたという話や、團十郎が風邪を引けば西洋の新聞がそれを報じるほどの名声だったと幼少期に聞いたという谷崎潤一郎の話からも伺える(3)。しかし、これまでに実際にどの程度の知名度があったのかは検証されてこなかった。そこで、明治期に主に英国、アメリカで團十郎がどのように報じられていたのかを当時の資料を使って検証する。

収集した文献からは九代目市川團十郎が「偉大な名優」と評価されていたことがわかる。記事には團十郎の写真や絵のついたものも多く、その風貌も含め紹介された。團十郎が語った言葉も記されており、外国人に対し團十郎が歌舞伎をどう説明していたのかを知る資料でもある。歌舞伎の舞台装置や観客の行動などに関する記述も多く含まれ、こうした西洋人の意見が劇場

の構造や芝居の内容、観劇姿勢の近代化に影響を与えたものと思われるが、本論では團十郎の何が西洋人を惹きつけたのか、またその時代的背景について考察するものとする。

1．資料について

本論で使用した資料は主として各国国立図書館、各新聞社等の有料・無料のデータベースで検索したものである。全文をオンラインでダウンロードしたほか、海外の古書店、博物館、図書館を通じて記事や書籍等を収集した。資料は年表にまとめ、文末に掲載した。しかしまだ多くの資料がデータベースに未収録であると思われ、さらなる調査が必要である。なお、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの文献も数百点入手しており、枚数の関係で今回は割愛するが、英米のメディアからの配信記事が多いことを記しておく。英語以外についてはフランス語とドイツ語の文献を一部確認したのみであり、英語以外の言語による検証も必要となろう。年代は不明であるが、ロシアで製作された團十郎の絵葉書も入手しており、ロシアでも知名度が高かったと思われる。

日付が近く、同じタイトルの記事は、他の新聞・雑誌と同じ内容の記事、あるいはその抜粋が掲載されている場合が多い。例えば、1899年（明治32）３月から７月にかけて発表された *The Irving of Japan* というタイトルの記事はほぼ同じ内容のものであるが、これは地方紙が発達しており、各地で配信記事が掲載されたためである[(4)]。さらにこの情報が国内だけでなく、国境も越えて広範囲に拡散していったことがわかる。日本の俳優に関する記述で多いのは團十郎、川上音二郎・貞奴、左團次であるが、團十郎は突出して多い。

團十郎の名前が最初に登場するのは、調べた限りでは1875年であるが、天覧歌舞伎が行われた1887年（明治20）以降「Danjuro」や「Danjiro」、「Danjero」の名は多くの雑誌や新聞に登場するようになる。中には「刀を飲み、剃刀の上を歩き、火を食べながらはっきりと自分の名前を言うことができる[(5)]」といった奇妙な記事（表１「刀」）もあるが、それ以外のほとんどは團十郎の芝居の見聞録、面会録、あるいは日本の演劇事情に関する記事である。1905年（明治38）には「日本で最も偉大な俳優は市川團十郎である」という一文が多くの新聞に掲載されており、團十郎の名声が死後も続いたことをうかがわせる。（表１「偉大」）

文中に登場する翻訳は、一部すでに日本語で出版されているものを除き、新たに翻訳をしたものである。またすでに翻訳されている文献についても、必要に応じて変更を加えた。なお、枚数の関係で原文の英文は割愛するが、引用した文献はインターネットで比較的容易に入手可能である。

2．偉大な俳優

明治期、歌舞伎が西洋人の歓待の場として利用されるようになると、多くの人が観劇録を残すようになる。客席が家畜小屋のように分けられている、俳優の顔を灯りで照らす黒子が煩わ

しい、女形の声がかん高くて聞きづらい、絶えず演奏される三味線がうるさいなどの感想は比較的よく見られるものである。『時事新報』に掲載された『夢物語盧生容画』に対する外国人の批評[6]に直接関係する記述は今回の調査では発見できなかったが、残酷な場面が多いという記述は散見される[7]。オスマン・エドワーズ（Osman Edwards）は切腹の場面を次のように説明する。

> 俳優は血まみれになり名誉のために自死を要する旨を説明した手紙を書く。それから見事に痙攣する手足が血のりまみれになるまで、非常にゆっくりと刀で腹を一文字に切る。この時点で気の弱い外国人は劇場を去りがちである。しかし、日本人の赤ん坊は血に青ざめることもなく、幼児期からそのような光景を通じて、他国の人が決して見せないほどの死に対する見事なまでの無関心さと名誉に対する極度の愛着を教えられる[8]。

さまざまな批評が行われる中、團十郎は一人「偉大な俳優」であるという評価を受けていた。では、團十郎の何が高い評価を受けたのだろうか。

團十郎が名優として頻繁に取り上げられるようになるのは1888年（明治21）頃からである。例えば *Iron County Register* 紙の “Great Danjiro” という記事では、團十郎がどの国でも通用する俳優である。記者は言葉がわからなくてもその演技を観て泣きそうになり、思わず他の観客と一緒に「Yorishii! yorishii!」と声をかけたとある。この記事は複数の新聞にも掲載されているが、アメリカの俳優と比較し團十郎を「日本のエドウィン・ブース[9]」と形容している[10]。日本語がわからなくても團十郎の芝居は理解できることへの驚きと称賛は多い。スレイデン（Douglas B. S. Sladen）は、あるアメリカ人の発言として「彼は團十郎のしかめ面やしぐさから芝居のすべての言葉を理解できたと言った[11]」という話を伝え、1894年（明治27）6月18日に『忠臣蔵』を観たアルベルト・ダネタン男爵夫人は、團十郎の演技は堂々としており、「表情がすばらしく、ほとんど英訳に目を向ける必要がなかった[12]」と日記に記し、1899年（明治32）に観劇したラッド（George T. Ladd）は *Rare Days in Japan* の中で「團十郎の高い演技力は私を感動させるのには十分だった。言うまでもないが、彼は偉大なアーティストだけが作り出せる誇大な表現を避ける力と自然さを印象付けた[13]」と記し、デル・マール（Walter Del Mar）も團十郎の演技について「彼の名声は当然であり、芝居の筋を理解したり、楽しむのに日本語がわかる必要はない[14]」と書いている。エドワーズは1899年に團十郎と面会し、そのときの様子を *The Sketch* に寄稿したが、團十郎をベケットやシャイロック、ルイ11世だけでなく、ポーシャやビアトリス、マクベス夫人をも演じられるような俳優で、65歳になってからも「だんまり」で踊ることができると評した。さらに俳優の表情を英国の俳優よりもはるかに効果的に用いることを可能にし、戦闘、殺人、突然の死を舞台上で演じるのに感情のうごきを鮮やかに見せることに成功した。伝統的な舞台では、人工的なせりふ回し、高い声、それ

に伴い絶えず演奏される三味線の音が外国人にとっては残念なものだったが、團十郎は特定の場面において音楽を最小限に抑え、より自然な発声でせりふを言えるようにした。現在多くの俳優がこの方法に従っていると伝えている[15]。

これらの記述からわかるのは、團十郎の表情の豊かさや演技が西洋人の目にも受け入れられやすく、理解しやすいものだったということである。これは演技中に限ったことではない。メンペス（Mortimer Menpes）は *Japan: A Record in Colour* の中で素顔の團十郎に面会した詳細を伝えているが、「表情やしぐさが実に見事であったので、私は團十郎の言っていることをほとんど理解できた[16]」と書いている。さらに團十郎の表情について質問をしている。

> 團十郎は観客のほうを向いていて、一瞬のうちに顔をすっかり変え、全く別人になった。この早業は本当に驚くべきものであったので、私はその方法を知りたくて、巧妙な化粧によるものではないかと言ってみた。「いやいや」と彼は叫んだ。「私は化粧はほんのまれにしかしないことにしています。われわれ役者は表情を変えるために、大いに顔の筋肉に頼らなければなりません。」團十郎はこのことを例証するために顔をさっと変えた。すると顔の斑点まで一変した。私は彼が同じ男であることは、シャーロック・ホームズでさえ見抜けないと思った[17]。

エドワーズが指摘したように、團十郎の名声をさらに高めたのは、彼が女形、しかも十代の若い女性を演じられるという点であった。*Nippon* には「團十郎の化粧はただすばらしかった。女性と区別するのは不可能だった。彼の顔は白く塗られ、頬紅がさされ、眉は絶妙なカーブを描き、口は極めて小さく朱赤に塗られ、顎には金色が一筆入れられていた[18]」とあり、*Smiling Round the World* には團十郎が完璧な17歳の少女に扮したまま自宅に行き團十郎との面会を求めると、彼の妻にはそれが團十郎だとわからず、恥知らずの娘がやってきたと嫉妬で怒った[19]という逸話が紹介されている。

しかし、團十郎の芝居を直接見たことのない読者にとって、團十郎への興味を喚起したものは彼の収入の多さではなかったのか。1890年（明治23）以降、團十郎の偉大さを示すために度々その収入が紹介されるようになった。（團十郎の収入については表１「ギャラ」）1890年５月に出た八紙が総理大臣の年収が9,600ドルなのに対し、團十郎は新劇場で33日の公演で3,500ドルを得るという内容の記事を掲載した。その後も團十郎の収入に関する記述は頻出する。日本の総理大臣よりも稼いでいる俳優という評価はさらにその名声を高め、1890年、*Things Japanese* の中でチェンバレン（Basil Hall Chamberlain）は、「現存する日本の最も偉大な俳優は市川團十郎である。東京を訪問する者は彼の稀に見る演技力とダンサーとしての敏捷性を発揮しているのを見に行くよう努力したほうがいい[20]」と書き、スレイデンは「バンクーバーを出発する前からアメリカ人乗客は偉大な團十郎と日本の演劇の名声について話を

始めた[21]」と記すほど、訪日の際に観るべきものの一つに数えられるようになった。そして、実際に多くの人が團十郎の芝居を観、彼にインタビューを申し込むようになっていったのである[22]。

３．「日本のアーヴィング」

坪内逍遙は『五世菊五郎』[23]と題した短文の中で、菊五郎と團十郎とを比較し、「彼のキーンやフェシテルやブースやアーヴィングの才の質に近いものは、團十郎にあらずして寧ろ菊五郎ではなかったか？」と指摘している。五代目菊五郎と九代目團十郎のいずれがより優れた俳優であったかはさておいて、この指摘は西洋人の間で團十郎ばかりがもてはやされ、菊五郎がほとんど話題にならなかったことの理由の一端を説明している。

逍遙の文章の中に登場する「アーヴィング」とは、当時シェイクスピア俳優として名を成したヘンリー・アーヴィング（Sir Henry Irving）のことである。1838年（天保９）に生まれ、1905年（明治38）に没したアーヴィングは團十郎と同じ年であり、ヴィクトリア王朝時代を代表する俳優であった。サマセットの労働者階級の家庭に生まれたアーヴィングは、生後まもなくから旅周りをしていた劇団に所属していた叔母の家に養子に出され、その後シェイクスピア俳優として名を成した。その特異な風貌はブラム・ストーカーの『ドラキュラ』に登場するドラキュラ伯爵のモデルとなった。そのアーヴィングと團十郎の風貌が似ていたことは実に多くの人が記録している。

1890年（明治23）５月にコノート公爵（Prince Arthur, 1st Duke of Connaught and Strathearn）と一緒に團十郎の芝居を観たフレーザー（Mrs. Hugh Fraser）は終演後の出来事を以下のように書き残している。

> 公爵は彼の演技と踊りを喜び、楽しませてくれたことに対して謝意を示した。團十郎は、彼がよく噂を耳にし、面会を切望しているヘンリー・アーヴィングと比べられたことを特にとても喜んだ[24]。

團十郎が実際にこの段階でアーヴィングについての情報を得ていたのかは不明であり、社交辞令としてこのように返答した可能性も否定できない。なぜならば、1893年（明治26）６月に一斉に團十郎がアーヴィングと似ているという記事が出るが（表１「アーヴィング」）、６月15日付け *The Times* などの記事には、インタビューアーから「アーヴィングに似たところがある」と言われ「初めて聞いた」と答えているからである。團十郎の認知の時期は不明としても、これ以前、1892年（明治25）６月11日付け *The Era* には「私たちは有名な團十郎、“日本のアーヴィング”の芝居を観に行った」という記述があり、遅くともこの頃には團十郎はすでに「日本のアーヴィング」と呼ばれていたことがわかる。また *The Rifle Brigade Chronicle* には、

1895年（明治28）５月下旬に團十郎が演じるのを見た印象を「高名な劇評家が東洋のアーヴィングと形容した偉大な日本の俳優、團十郎を見に行った。彼は確かにうまい俳優で、不思議なことに動きや癖が否応なくサー・ヘンリー・アーヴィングを思い出させた[25]」と記されているなど、團十郎がアーヴィングに似ていたという記述は枚挙にいとまがない。前述のメンペスは素顔の團十郎に面会したときのことをこう書いている。

> 英語を完璧に話す福地を通じて、私に最初に言ったことの一つは、「聞くところでは、私にはお国の偉大な役者、サー・ヘンリー・アーヴィングに似たところが多いとのことですが」であった。そして、彼が話している間にも、私はこの二人の顔の明らかな類似点を見つけることができた[26]。

帰国後、メンペスは團十郎を描いたパステル画をアーヴィングに贈っている[27]。また、スコットは、帰国したら、アーヴィングに幕間に團十郎の真似をしてはどうかと提案してみようと発言している[28]。1893年（明治26）の *Punch* 誌にはアーヴィングの鏡に映った姿が團十郎になっている風刺画が掲載された[29]。1892年頃から團十郎に関する記載のほとんどに「日本のアーヴィング」という形容が用いられ、知名度は爆発的に上がったと思われる。新富座は「團十郎の劇場（Danjuro's theatre）」と呼ばれるようになった。

團十郎とアーヴィングには容姿以外にも類似点があった。アーヴィングは1878年（明治11）以来、俳優兼マネージャーとしてライシアム劇場の経営に関わり、シェイクスピアを上演するためにガス灯を導入し、時代考証を重視し、『ハムレット』や『ヴェニスの商人』の演技に代表されるように登場人物の心理描写に重点を置き、リハーサルを行い、舞台装置、音楽、脚本家など舞台関係者の育成を行うなど、数々の演劇上の改革を行った。こうした一連の功績が認められ、1895年、俳優として初めてナイトに叙せられた[30]。このことにより俳優と演劇界の社会的評価が向上したといわれている。同様に、古典劇の改革者としての團十郎の側面もまた注目を集めている。以下はエドワーズに演技法について聞かれた團十郎の答えである。

> 私が最大限の努力をして実現した変化について説明したい。まず、より自由に解釈することを目指した。伝統が悩みの種だった。痛々しく猿まねのように先人を真似るのではなく、私は自分に影響力があると感じてからすぐに、登場人物に対する私自身の理解を演じてみせるという模範を示した。しかし、それはとてもたいへんな取り組みだった。それから、より自然な口調を導入しようとした。以前はわめきちらしたり、真実味にかける熱弁がルールだった。（中略）
>
> ああ、それは真の改革だったと思う。昔の俳優の顔は凶暴に見せるために赤や青の縞に塗られていた。彼らは観客を怖がらせることはできたかもしれないが、多様な表現ができ

なかったため、他の方法では感動させることはできなかった[31]。

團十郎はアーヴィングと同様、時代考証や他の舞台関係者の教育にも熱心であった。若いうちから「役者であると同時に芸術家であるために、また何よりもわざとらしさを避けるために、身だしなみと優美な行儀作法を教えられないといけない」ため、俳優のための学校建設の希望をメンペスに対し語っている[32]。

４．歌舞伎俳優の身分

1922年（大正11）１月３日、*The Times* 紙に掲載された「日本の軽蔑された劇場―皇室の後援を期待」[33]と題された記事には、日本は西洋にいくつかの使節団送った後、他国では俳優は尊敬されていると気が付いたという記述がある。エドワーズは出雲阿国とブラックフライアーズ劇場を、近松門左衛門とウィリアム・シェイクスピアを比較し、日英の演劇の類似性を指摘しているが[34]、英国ではエリザベス一世がシェイクスピアを庇護し、以降劇場文化が発展したという違いがある。またフランスでは1680年に王立のコメディフランセーズが創立され、スペインやプロイセン、ロシアにおいても王室や貴族の庇護のもと演劇文化が花開いた。劇場は社交の場であり、貴賤を問わず同じ空間で同じ演目を楽しむものという認識を持つ西洋人に、日本では古来より能に比べ歌舞伎の社会的地位が低いこと、歌舞伎俳優が差別の対象であることは驚きを持って受け止められた。日本においては1887年（明治20）の井上馨邸における公演まで天皇が歌舞伎を観たことがないという事実は特に注目を集め、團十郎を「初めて天皇の前で演じた俳優」とする記述は多い。また俳優に対する差別についての記述は多く、その具体的内容にも触れたものも少なくない。以下のメンペスの *World Pictures* からの一文には日英の「俳優」という職業に対する認識の差が表れている。

> 彼（注：團十郎）は世界的に愛されていれており、あらゆる場所で人々のお気に入りとなっている。しかし、在日英国人が俳優の地位を改善しようと努力してきたのにも関わらず、社会的地位は非常に低い。実際、日本では俳優は優男で、舞台上できどっているに過ぎないと見なされ、身分の高い人たちは彼らをもてなそうなどとは考えもしない。中流階級ですら俳優を友達と見なすのを躊躇する[35]。

團十郎の名前が最初に登場する1875年（明治８）３月10日付けの *The Japan Mail* 紙では、歌舞伎俳優は人気がありながら被差別民と見なされていたことが記されている[36]。十年後の1885年（明治18）１月13日の *Glasgow Evening Post* 紙では「舞台に対する偏見は少しもなくなっていない」として *The Japan Mail* 紙に掲載された記事を引用する。それによれば、ある高官の家に團十郎と菊五郎が招かれた際、他の招待客が同席することを嫌がり、「下層の人間

が座を汚したので清めるために塩をまいた」という[37]。ブラウネル（Clarence Ludlow Brownell）は歌舞伎役者は「一匹、二匹」と「獣と同じ数えられ方」をしていたというエピソードを紹介している[38]。カーティス（William Eleroy Curtis）は「俳優はもはや排斥されていない」と書きながら、團十郎のような俳優ですら女性のいる社交の場には呼ばれないこと、高い地位の女性は劇場にいかないとされていること、劇場の観客は中流階級、商人、職人などであり、紳士は地方から出てきた友人を劇場でもてなすことはあってもそれはあまり高い評価を得られるようなことではないと記している[39]。

1890年（明治23）6月、日本の新聞に掲載された歌舞伎役者になりたいという若者に対する左團次の返答についての記事が英国でも紹介された。（表1「職業」）役者の道は厳しいものなので、選択肢があるのならば、他の職業を選ぶことを勧めるという内容だ。しかし、これらの記事は「近代日本の最も偉大な俳優、そして日本の舞台上最も偉大な俳優の一人は市川團十郎、あるいは左團次である」となぜか團十郎の名前が加えられており、すでに読者の興味を惹きつけるためには「團十郎」の名前が必要であると編集者が判断していたことが伺える。

> 役者は顔を塗り粉をはたき、錦や刺しゅうを施した絹の衣装を着て、喜びと楽しみの連続の人生で、楽に暮らしていけると外からは見えるが、内側から見れば、事実と一般に信じられていることには雲泥の差があることがわかるだろう。それだけでなく、耐えなければならない辛苦はハデスの苦しみなのに、俳優の奮闘は微塵も世界のためにならず、そのため社会の役に立たない。従って、他に選べる仕事があるならば、俳優の階級に属する気にさせるほどのものはこの職業にはない。それどころか、恐れと恐怖の人生なのだ[40]。

総理大臣よりも稼ぎの多い團十郎のような俳優ですら、その職業に否定的にならざるを得ない日本の差別の現状とそれと闘おうとする團十郎の姿はますます西洋人の興味を惹いた。

> 徳川時代、俳優はとてもひどい扱いを受けていた。彼らは、橋の下の河原に住む放浪者である「河原者」の出身である。すべての階級差別が撤廃された明治になるまで、彼らは河原者としか結婚できなかった。（中略）現代の俳優は河原者の子孫であることが多く、有名な九代目團十郎も河原者であった[41]。

1897年（明治30）8月号の *Cosmopolitan* 誌には、團十郎は天皇の前で演じた唯一の俳優で、そのことを何よりも誇りに思っており、團十郎の家では以来その日を記念日とし、十年目には祝賀会をしたと團十郎の娘から聞いたとあり、またヨーロッパの演劇事情に興味を示さなかった團十郎が「女王によりヘンリー・アーヴィングがナイトに叙せられたこと」にのみ興味を示したとある[42]。また、*Shinto* の「神主」の説明の中には、栄誉のために團十郎が神主の資格

を授与されたことが記され[43]、宗教上の役職が社会的地位の向上の手段の一つであったと示唆している。

前述のメンペスとの面会時には、中流階級の観客のほうが共感してくれるので好ましいと語った後で、團十郎は「西洋と接触したことがあり、洋服を着ている外交官や政治家は、どういうわけか私たちを気に入らないようだし、観客としても役に立たない。おそらく自分たちは偉いという気持ちを捨てられないのでしょう[44]」と述べている。エドワーズに対しても「1886年（注：実際には1887年）に井上候宅で天皇が演技を観てから、地位のある人達にとっても、ときどき劇場に行くのはよりおしゃれなこととなったが、華族が階層として芝居を庇護しているとはいえない」、また「私自身に関して言えば、華族や親王の一人が光栄にも家に招いてくれる。しかし、そうした招待は決して普通のことではない[45]」と同様の発言を繰り返し、天覧歌舞伎後も依然として歌舞伎が社会の上層に受け入れられているわけではなく、「俳優の無学が、彼らの社会的向上の妨げになっている」と持論を展開している。

5．西洋人から見た差別

ここで西洋人が團十郎にまつわる差別を報じ続けた理由を時代背景から検証したい。西洋に伝えられた團十郎の発言や歌舞伎に関する情報から読み取れる歌舞伎俳優に対する偏見、差別とは大まかに以下のようなものである。教育の欠落に起因する無教養と立ち居振る舞いの悪さ、社会の役に立たない存在、職業的選択肢の欠落、他の社会階層の女性との婚姻の禁止。これらは歴史的階級制度に起因し、また明治以降の法的身分の平等によっても差別感情が直ちに消滅しないという事実を示している。では西洋で近代への移行期に社会階層上の差別や偏見はどのように是正されたのか。

近代以前、ユダヤ教徒は居住地区・職業選択の限定、衣服の規定、異教徒との婚姻の禁止、信仰形態の相違、一般教育からの除外などにより「社会の役に立たない存在」であるとされ、差別や隔離政策が正当化されていた。1789年のフランス革命を契機に、ヨーロッパでは法の下での市民の平等が実現されていく過程で、各国共通の課題として浮上したのがキリスト教徒の市民と同等の法的権利をユダヤ教徒に認めるかということであった。

1791年にユダヤ教徒がフランスで法の下での平等を認められると、その動きはヨーロッパ中、さらにアメリカに広がった。その一方でユダヤ教徒の受け入れには非ユダヤ社会への一定の文化同化を前提とするという議論が西洋社会で巻き起こり、同時にユダヤ教徒側からも同化を推進するための改革運動が起きた。その結果、職業選択の自由、生活習慣と信仰形態の変革、一般市民と同等の教育、異教徒との婚姻の自由などが実現された。また非ユダヤ社会へのより完全な同化と社会階層の上昇移動を目指す多くの人々がキリスト教への改宗を行った。ユダヤ・非ユダヤ双方からの働きかけを受け、1871年、ババリアで法的平等を獲得したのを最後に、西欧の「ユダヤの解放」は完了したとみなされる[46]。

バー・ヘン（Eli Bar-Chen）が指摘するように、この過程を通じてユダヤコミュニティの抑圧状況について主要メディアが報じることにより差別や偏見を改善するべきという世論が喚起され、各国議会で普遍的人権をユダヤにも認めるべきという議論が起こり、それが解放への動きを後押しした[47]。しかし、市民に平等の権利が保障され、「ユダヤ系[48]」であるということは信仰告白以外の意味をもたなくなっても、解放に対する反発は強く、1894年（明治27）のドレフェス事件により、法的平等は偏見を解消しないことが明白になった。團十郎が西洋によって見出されたのはそうした時代であった。

言うまでもないことだが、明治期の歌舞伎俳優の置かれた社会的状況が十九世紀のユダヤ系の状況と似ていたとは考えられない。ユダヤ系差別とそれに対する対応は、欧米各国の社会情勢により異なっており、解放過程を単純化して比較することは不可能である。しかし、團十郎が西洋人に語ったとされる差別の内容が、西洋社会を巻き込んで議論された内容と類似していたのは確かである。言い換えれば、彼らは西洋近代の反差別の思考を日本の俳優差別に投影したのである。だからこそ團十郎の発言の中から彼らにとって馴染みのある差別の事例が積極的に本国に伝えられた。一方で、舞台や私生活上の奢侈を問われ七代目團十郎が江戸を追放された事実などは取り上げられなかったのである。カッツ（Jacob Katz）が論じたように、近代的市民社会において差別を解消しようとする者には偏見は存在しないが、それに反対する者は前近代的偏見に基づいて差別を助長するのである[49]。そのため西洋のメディアは、歌舞伎俳優に対する差別の実態を指摘し続けた。

前述の1922年（大正11）１月３日付け *The Times* 紙に掲載された記事には、グラント将軍をはじめ各国の大臣らが團十郎を贔屓にしたことにより井上馨が天覧歌舞伎を実現させたとある。「しかし、この機会によっても俳優の汚名をそそぐことはできず、国家の最高位による庇護には値しないという慣習が残っている。皇族の観劇は未だ体面に関わることだ」と続ける。この記事や前項のメンペスの *World Pictures* の引用の裏に見えるのは、日本の俳優の社会的地位の向上を支援するという使命感であり、そのことをメディアで発信してもなお偏見を払拭できないことへの苛立ちである。

團十郎の死後、1903年（明治36）12月19日付け *Preston Herald* 紙に掲載された訃報は西洋人の見た「團十郎像」を端的に著わしている。ここでは團十郎は俳優というより、もはや社会改革の指導者である。

> 66歳だった團十郎は高い評価を受けた俳優として優れていただけでなく、個人としての高潔さと彼が立派に代表した職業の模範だと見られていた。昔、日本の俳優は階級として非常に貶められ、士気をくじかれていた。團十郎は同業者の地位を高めるという困難な仕事に着手し、その誠実で高潔な行動により彼らの信頼を得ることに成功したのである。

またベルツ（Erwin Bälz）は團十郎の葬儀について以下のように記している。

> 彼の青年時代には俳優たちは全くさげすまれ、ほとんど人間社会の外に置かれている有様だった。かれらは「つまはじき者（アウトキャスツ）」だった。團十郎の父から出た言葉に「錦を着ても畳の上の乞食」というのがある。つまり「金襴を身にまとっていても、われわれは社会の乞食にすぎない」というのだ。（中略）團十郎は、その階級を世人の眼前で、従来夢想だにしなかった程度に向上させたことを誇って可なりだ。近代において日本の社会的変革が、これほど明白に現われたことは、他にほとんど例を見ない[50]。

アーヴィングに勝るとも劣らない才能を持つ名優は社会的尊敬の対象であるべきであり、前近代的差別と闘う姿勢は称賛されるべきであるという彼らの主張は、團十郎の死後も本国で拡散されていったのである。

終わりに

日本の他の被差別民と西洋人が直に接する機会は極めて限定的であったと思われ[51]、團十郎は前近代的社会構造の不利益を被る唯一の存在として西洋人の前に登場し、その苦境と奮闘を訴えたと言えるだろう。團十郎が西洋人に何を語ったのかの全貌はわからない。しかし、西洋のメディアを通じて、團十郎は「アーヴィングに似た名優」だけでなく、差別に対して孤軍奮闘し社会改革を試みる人物として英雄視されていったのである。

西洋諸国の貴族や外交官や軍人がこぞって團十郎の芝居を観たがった。それだけでなく、ジャーナリストや画家が次々とインタビューに訪れ、依然として改善しない差別の状況に興味を示し、彼が行った演劇上の改革を報じる価値のあるものとして発信していくのを團十郎は目撃したはずである。團十郎は西洋人との接触を通じて、俳優が他の職業と同等に扱われ、名優が高い社会的地位を得、尊敬の対象となる世界の存在を知った。西洋人からの働きかけに対し、團十郎がいかに対応したのかについては今後の検証課題としたい。

〔注〕

（１）　中村哲郎『西洋人の歌舞伎発見』劇書房　昭和五十七年。團十郎については「IV 明治から大正へ」を参照。

（２）　漆原その子「九代目市川団十郎年譜」『歌舞伎　研究と批評』22　1998年

（３）　谷崎潤一郎「饒舌録」『谷崎潤一郎全集』第十二巻　中央公論新社 2017年 p. 345

（４）　表１、1899年参照。５月20日付け *Desert Evening News* の “Ichikawa Danjuro, the Joseph Jefferson of Japan” は、Henry Irving を他の名優 Joseph Jefferson に置き換えた同じ内容の記事である。

（5） 1894年2月2日付け *Dundee Evening Telegraph* 紙など。表1「刀」。

（6） 明治十九年七月六日「劇場改良」『時事新報』p. 2。

（7） 例えば、 Sladen, D. B. S. *The Jap at Home*, 1892. p. 303「日本の史劇は恐ろしく刃傷沙汰が多く、殺人の描写はいつも最も写実的に表される」や *Picture of the World*, p. 214「死や殺人場面が残酷であればあるほど、人々は好んだ」など。

（8） Edwards, Osman, *Japanese Plays and Playfellows* 1901. p. 79

（9） Edwin Thomas Booth（November 13, 1833 — June 7, 1893）アメリカの俳優。シェイクスピアを演じ、名優と呼ばれた。

(10) 1888年6月14日 *Iron County Register* 紙など。

(11) Sladen 前掲書 p. 257

(12) D'Anethan, Baroness Albert, *Fourteen Years of Diplomatic Life in Japan*, NY, 1912. p. 76

(13) Ladd, G. T., *Rare Days in Japan*, 1910. p. 176. Ladd が見た三演目のうち二つに團十郎が出演していた。

(14) Del Mar, Walter, *Around the World through Japan*, 1903. p. 294

(15) Edwards, Osman, "The Irving of Japan", *The Sketch*, March 29, 1899.

(16) Menpes, Mortimerm, *Japan: A Record in Colour,* 1901 p. 16. 渡辺義雄、門脇輝夫訳『日本絵画紀行』朝日出版社 平成元年 p. 12 日本語版には原本にある絵が含まれていない。

(17) Menpes, 1901 p. 16-17.『日本絵画紀行』p. 13-14。

(18) May, H. C., *Nippon*, 1898 p. 72

(19) Wilder, M. P., *Smiling 'Round the World*, 1908 p. 134

(20) Chamberlain, B. H., *Things Japanese,* 1890. London p. 417

(21) Salden, 前掲書. p. 252

(22) 1896年7月号の *Musical Record* 誌などには團十郎が外国人との面会に金を徴収していたことがわかる記述がある。

(23) 「五世菊五郎」『逍遙選集』第12巻 第一書房 1977年

(24) Fraser, Mrs. Hugh, *A Diplomat's Wife in Japan*, 1898. p. 163

(25) Verner, Major Willoughby, *The Rifle Brigade Chronicle for* 1895, 1896. p. 143

(26) Menpes, 前掲書

(27) 1898年12月付けアーヴィングからの礼状からこの絵はこの頃贈られたものと考えられている。礼状はメンペスの *Henry Irving*, London 1906に収録。同じモチーフの水彩画は *Japan: A Record in Colour* に掲載されている。現在、アーヴィングが所蔵していた絵は大英博物館蔵。

(28) "A Chat with Mr. Clement Scott", *The Sketch*, 1893年7月5日 p. 1

(29) "Our ta-ra-ra-boom-ta-ra-tra-gedian Japann'd" Punch, 6月24日号 London p. 289

(30) https://www.theirvingsociety.org.uk/sir-henry-irving-1838-1905/（2017年 5 月16日 閲 覧）, Mepes, Mortimer, *Henry Irving*, London, 1906

(31) Edwards, 1901 p. 267.

(32) Menpes, 1901 p. 19 および『日本絵画紀行』p. 15

(33) “Japan’s Despised Theatre-Hope of Imperial Patronage” *The Times*, 1922年１月３日

(34) Edwards, 1901 p. 72-73

(35) Menpes, Mortimer, *World Pictures*, 1902. London. p. 301

(36) 1875年３月10日付け *The Japan Mail* 紙。原文には「the new theatre near Shiba, Tokyo” とあるが、Shiba とあるのは勘違いで、新富座のことを指していると思われる。

(37) 1885年１月13日付け *The Evening News*

(38) Brownell, Clarence Ludlow, *Tales from Tokyo*, 1900. Bownell は *The Heart of Japan* でも同じ話を紹介している。Sladen の *Queer Things about Japan* にも同じ話が登場する。

(39) Curtis, William Eleroy, *The Yankees of the East*, New York, 1896 p. 542-543

(40) 1890年７月16日付け *Pall Mall Gazette*.

(41) Greenbie, Sydney, *Japan-Real and Imaginary*, 1920, New York p. 409-410. 歌舞伎俳優が「河原者」と呼ばれていたことについては1898年７月30日号 *Literature* p. 94にも記述がある。

(42) Porter, Robert, “Japan’s stage and greatest actor”, *The Cosmopolitan*, The Cosmopolitan Press. 1897.8. p. 417

(43) Aston, W.G., *Shinto*, London, 1905 p. 204

(44) Menpes, 1901 p. 19.『日本絵画紀行』p. 16.

(45) Edwards, 1901 p. 268-270

(46) 西欧での解放に至る経過および議論については Katz, Jacob, *Out of the Ghetto*, Cambridge, MA, 1973; Sorkin, David, *The Transformation of German Jewry*, 1780-1840, Michigan, 1999; *Moses Mendelssohn and the Religious Enlightenment*, California, 1996; Vital, David, *A People Apart*, Oxford, 2001を参照。

(47) Bar-Chen, Eli, “Two communities with a Sense of Mission: The Alliance Israelite Universalle and the Hilfsverein der deutschen Juden”, *Jewish Emancipation Reconsidered*, London, 2003 p.115-118

(48) 解放以降、「ユダヤ教徒」の中からキリスト教に改宗する者、無神論者などが登場し、また、後に差別感情から「ユダヤ人」という民族の概念を生むに至り、他者および自らの定義が多様化するため、これらすべてを包括する言葉として「ユダヤ系」の語を用いる。

(49) Katz, 前掲書　p. 7

(50) トク・ベルツ『ベルツの日記』（上）岩波書店　1979年　p. 334-335

(51) 小泉八雲は『俗唄三つ』の中で1891年に「特殊階級の人たちの部落」に行ったことを *Japan Mail* に寄稿したと記している。『小泉八雲全集』四巻、第一書房　1927年

（みやち　まり　文学研究科佛教文化専攻修士課程修了）
（指導教員：斎藤　英喜　教授）
2017年９月27日受理

表 1　新聞・雑誌（＊は Danjiro と表記。その他は Danjuro）

年	月	日	頁	国名	
1875	3	10	133-134	JP	“Theatres”, *Japan Weekly Mail,* Yokohama
1885	1	13	1	UK	＊”The Lorgnette”, *Glasgow Evening Post,* Lanarkshire, Scotland
1887	1	27	1	US	“Japanese Theaters”, *Savannah Courier,* Savannah, TN
	8	13	7	UK	“Literary Notices”, *The Essex Standard,* Essex, England
1888	2	5	16	US	“A Young Nanki-Po”, *The Saint Paul Daily Globe,* St. Paul, MN
	6	14	2	US	＊”The Great Danjiro”, *Iron County Register,* Ironton, MO
	7		117	US	“Actors and Theatres in Japan”, *The VOICE,* New York
	8	7	1	US	＊”The Great Danjiro”, *The Lebanon Express,* Lebanon, OR
	8	21	3	US	＊”The Great Danjiro”, *Idaho Semi-weekly World,* Idaho City, ID
	8	24	6,7	UK	“A Japanese Theater”, *St. James's Gazette,* London, England
1890	5	3	9	UK	*Birmingham Daily Post,* West Midlands, England ギャラ
	5	5	8	UK	“Epitome of News”, *The Yorkshire Post*、West Yorkshire, England　ギャラ
	5	5	2	UK	*The Evening Telegraph and Star,* South Yorkshire, England ギャラ
	5	10	6	UK	*Dorking Advertiser,* Surrey, England　ギャラ
	5	10	2	UK	*Freeman's Exmouth Journal,* Devon, England ギャラ
	5	10	6	UK	*Alcester Chronicle,* Warwickshire, England　ギャラ
	5	10	7	UK	“Hargrave”, *The Bury Free Press,* Suffolk, England　ギャラ
	5	10	6	UK	*East and South Devon Advertiser,* Devon, England　ギャラ
	5	10	6, 7	UK	*Lake's Falmouth Packet and Cornwall Advertiser,* Cornwall, England　ギャラ
	5	13	7	UK	*The Bideford Weekly Gazette,* Devon, England　ギャラ
	7	16	4	UK	*“A Japanese Actor on the Stage as a Profession”, The Times,* London, England 職業
	7	16	6	UK	“A Jpanese Actor on the Stage”, *Pall Mall Gazette,* London, England　職業
	7	16	7	UK	“A Japanese Actor on the Stage as a Profession”, *St. James's Gazette,* London, England　職業
	7	18	8	UK	“A Japanese Actor on the Stage”, *The Northern Whig,* Antrim, Northern Ireland 職業
	7	18	2	UK	“An Actor on the Actor's Vocation”, *Glasgow Evening News,* Lanarkshire,Scotland 職業
	7	18	5	UK	*Western Mail,* South Glamorgan, Wales　職業
	7	26	2	UK	“A Japanese Actor on the Stage as a Profession”, *The South London Press,* London, England　職業
	7	26	9	UK	“A Japanese Actor on His Profession”, *The Era,* London, England　職業
	8		99-107	US	Dora E. Amsden, “Dramatic Art in Japan”, *Overland Monthly,* San Francisco
	8	16	7	US	“T heatrical Notes”, *The Wichita Daily Eagle,* Wichita, KS. 職業
1891	3		337	US	Sir Edwin Arnold, “Japonica Fourth Paper”, *Scribner's Magazine,* New York
	4		685-693	US	Eliza Ruhaman Scidmore, “The Japanese Theatre”, *The Cosmopoitan,* New York
	7	11	8	UK	“Theatrical Gossip”, *The Era,* London, England　ギャラ
	7	11	2	UK	“Green Room Gossip”, *South Wales Echo,* South Glamorgan, Wales　ギャラ
	7	13	2	UK	“The Glasgow Theaters”, *Glasgow Evening Post,* Lanarkshire, Scotland　ギャラ
	7	13	4	UK	“Music and the Drama”, *The Nottingham Evening Post,* Nottinghamshire, England　ギャラ
1892	6	11	15	UK	＊”A Japanese Theater”, *The Era,* London, England
	9	4	12	US	“Hara-Kiri in Japan”, *The Morning Call,* San Francisco, CA.
	10	7	14	UK	“News from Japan”, *The Times,* London, England
1893	6	15	10	UK	“A Great Japanese Actor of the art of acting”, *The Times,* London, England アーヴィング
	6	15	2	UK	“The Japanese Irving”,*The Yorkshire Evening Post,* West Yorkshire, England アーヴィング
	6	16	2	UK	“Fashion and Varieties”, *The Dublin Evening Mail, Dublin,* Republic of Ireland アーヴィング
	6	16	3	UK	“The Greatest Actor in Japan”, *Glasgow Evening Post,* Lanarkshire, Scotland アーヴィング
	6	17	4	UK	“At the Instance of the Victoria”,*The Nothern Whig,* Antrim, Northern Ireland アーヴィング
	6	21	2	UK	“General News”, *The Daily Express,* Dublin, Repblic of Ireland　アーヴィング
	6	23	6	UK	“The Henry Irving of Japan”, *The Dover Express,* Kent, England　アーヴィング
	6	24	289	UK	“Our ta-ra-ra-boom-ta-ra-tra-gedian Japann'd”, *Punch,* London　アーヴィング
	6	24	2	UK	“Our Note Book”, *Illustrated London News,* London, England　アーヴィング
	6	27	6	UK	“The Henry Irving of Japan”, *The Bideford Weekly Gazette,* Devon, England　アーヴィング
	6	28	7	UK	“Japan's Greatest Actor”, *The Sketch,* London, England　アーヴィング
	7	1	9	UK	“A Japanese Actor on Acting”, *The Era,* London, England
	7	5	1,2	UK	“A Chat with Mr. Clement Scott”, *The Sketch,* London, England
	7	15	41-44	US	Clement Scott, “Un-Japanned Japan”, *The Illustrated American,* New York
	7	25	7	US	＊”A Japanese Henry Irving”, Wheeling Daily Intelligencer, Wheeling, VA
	8	12	6	UK	＊ Clement Scott “The Playhouses” Illustrated London News, London, England
	8	12	196-197	JP	“Mr. Clement Scott on His Travels”, *Japan Weekly Mail,* Yokohama
	10	11	6	UK	“Ladies' Letter”, *The Northern Whig,* Antrim, Northern Ireland
	10	13	3	US	“The Art of Acting”, *Emmos County Record.* Williamsport, ND
	10	19	9	US	“Acting as Japanese See It”, *The Evening Star,* Washington DC
	10	31	3	UK	“Bright and Brief”, *The Buchan Oberver,* Aberdeenshire, Scotland
	12	2	2	US	“The Art of Acting”, *The Sperior Times,* Sperior, WI
	12	2	4	UK	*Cardiff Times and South Wales Weekly News,* South Glamorgan, Wales
	12	21	4	UK	“News in brief”, *South Wales Daily News,* South Glamorgan, Wales
1894	1	7	12	US	“People and Things”, *The Omaha Daily Bee,* Omaha, NE 刀
	2	2	2	UK	“Notes Mainly Personal”, *The Evening Telegraph,* Angus, Scotland 刀
	2	3	4	UK	*The Evening Telegraph and Star,* South Yorkshire, England　刀

	2	10	2	UK	*The Leeds Times*, West Yorkshire, England　刀
	3	14	35,36	UK	＊Clement Scott, “A Japanese Theater”, *The Sketch*, London, England
	5	9	26	UK	＊”In Happier Climes”, *The Sketch*, London, England
	5			US	Harriet J. Baird-Huey, “What to Do in Japan”, *Around the World*, New York
	7	20	75	UK	Clement Scott, “The Theatre in Japan”, *Public Opinion*, London, England
	7			US	Clement Scott, “The Theatre in Japan”, *Current Literature*, New York
	9	14	4	US	＊”The Theater in Japan”, *The Wichita Daily Eagle*, Wichita, KS
	10	10	22	UK	＊”the Book and Its Story: An Actress in the East”, *The Sketch*, London, England
1895	4	26	6	UK	“A Japanese Play”, *The Evening Telegraph*, Angus, Scotland
	7	20	8	UK	“Theatrical Gossip”, *The Era*, London, England
	10	14	5	US	“In a Japanese Theater”, *New York Daily Tribune*, New York, NY
	11		862	US	“News and Comments”, *Werner's Magazine*, Chicago, IL
			524-528	UK	Douglas Sladen, “Odd Scenes in Japanese Streets”,*The Windsor Magazine*, London
1896	4	12	11	US	＊”The Japanese Stage”, *The Sun*, New York, NY
	4	21	8	US	＊”Danjiro, the Actor”, *Norfolk Virginia*, Norfolk, VA
	5	19	3	US	＊”The Stage in Japan”, *The Roanoke Daily Times*, Roanoke, VA
	5	21	8	US	“Performances in Japanese Theatres”, *The Scranton Tribune*, Scranton, PA
	6		10	US	“The Japanese Stage”, *The Musical Record*, Boston, MA
1897	3	31	5	UK	“Japan Since the War: the Moderninsing of the Drama”, *The Mroning Post*, London, England
	4		378-387	UK	Raymond Blathwayt, “With an Artist in Japan”, *The Strand Magazine*, London
	8	7	429-430	US	“Drama as the Japanese Like It”, *The Literary Digest*, New York
	8	7	1	US	“Local Items”, *The Washburn Leader*, Washburn ND
	8	14	477-478	US	“The Star of the Japanese Stage”, *Living Age*, New York
	8	31	1	UK	“By the Way”, *The Globe, London, England*
	8		347-362	US	“Japan's Stage and Greatest Actor”, *The Cosmopolitan*, New York
	9	1	1	UK	“’Mail’ Mustard and Cress”, *The Daily Mail, East Riding of Yorkshire*, England
	9	4	5	UK	“The Theaters”, *The Graphic*, London, England
	9	15	522-531	FR	“Le theatre au Japon”, *La Revue des revues*, Paris
	9	22	1	UK	“A Japanese Irving”, *The Globe*, London, England
	9		i	US	“The Drama and Literature”, *Musical Courier*, New York
	11	7	8	US	“Dramatic and Musical Notes”, *The Kansas City Journal*, Kansas City, MO
	11		313-314	US	“Dramatic Art in Japan”, *Werner's Magazine*, Chicago, IL
1898	2	18	7	US	＊”The Stage in Japan”, *Copper County Evening News*, Calumet, MI
	3	10	186-187	US	The Nation, New York, NY
	3		336-349	US	“The Social and Domestic Life of Japan”, *Atlantic Monthly*, Boston, MA
	7	30	94	US	*Literature*, New York, NY
	10		31	US	“The Silk Worm in Japan” *The American Silk Journal*, New York
	12		281-289	US	Eliza Ruhmah Scidmore, “The Wonderful Morning-Glories of Japan”, *The Century Illustrated Monthly Magazine*, New York
1899	3	20	2	UK	＊”Japanese Play and Playgoers”, *London Evening Standard*, London, England
	3	25	13	UK	“Japanese Theaers”, *The Era*, London, England
	3	25	17	UK	“The Stage in Japan”, *The Era*, London, England
	3	29	25	UK	“The Irving of Japan”, *The Sketch*, London, England
	4	30	30	US	“The Henry Irving of Japan”, *The Seattle Post Intelligencer*, Seattle, WA
	5	15	7	US	“Modern Japan”, *The Argonaut*, San Francisco, CA
	5	20	12	US	“Ichikawa Danjuro, the Joseph Jefferson of Japan”, *Desert Evening News*, Great Salt Lake City, UT
	5	26	2	US	“The Irving of Japan”, *Chanute Times*, Chanute, KS
	7	7	2	US	“The Irving of Japan”, *San Juan County Index*, Aztec, NM
	7	8	11	US	“The Irving of Japan”, *El Paso Daily Herald*, El Paso, TX
	8	9	6	UK	“The Change in Japan”, *The Liverpool Mercury*, Merseyside, England
	9	21	4	UK	“Japan and London Stage”, *Pall Mall Gazette*, London, England,
	9	30	21	UK	“State and Stage in Japan”, *The Graphic*, London, England
1900	2	20	7	UK	＊”A Theater Party in Japan”, *London Daily News*, London, England
	2	22	18	UK	＊”In Japan”, *The Stage*, London, England
	5	24	3	UK	“The Coronet Theatre”, *The Morning Post*, London, England
	12	1	225-232	US	Poultney Bigelow, “My Japan” *Harper's Magazine*, New York
	12	9	6	US	“Odd Ways in Japan”, *The Sun*, New York, NY
	12	23	11	US	“Odd Ways of Japan”, *Salt Lake Herald*, Salt Lake City, UT
	12	27	6	UK	“Japanese Silk”, *The Manchester Courier nd Lancashere General Advertiser*, Greater Manchester, England
1901	1	9	4	US	“Odd Things in Japan”, *The St. Johnsbury Caledonia*, St. Johnsbury, VT
	1	19	68-69	US	“Music, Art, and Drama in Japan”, The Literary Digest, *New York*
	3		370-374	US	“Alamnae Department “, *The Smith College Monthly*, Boston, MA
	4	6	8	US	“Out of Japan”, *New York Daily Tribune*, New York, NY
	4	12	7	US	“The Japanese Geisha Girl”, *Virginia Enterprise*, Virginia, MN
	5	7	12	UK	“The Japanese Stage”, *St. James's Gazette*, London, England
	7	1	11	US	“The Drama”, *Evening Star*, Washington DC
	7	1	21-22	US	“Recent Books of Travel”, *The Dial*, Chicago, IL
	7	27	15	UK	“The Japanese Stage”, *The Era*, London, England

	8	14	3	US	“Japan’s Greatest Actor”, *The Indianapolis Journal,* Indianapolis, IN
	8	29	2	US	“The Irving of Japan”, *Chikasha Daily Express,* Chickasha, OK
	8	31	5	US	“The Theatrical Press Agent in Japan”, *The Richmond Dispatch,* Richmond, VA
	10	13	14	US	“Japan’s Greatest Actor”, *New York Tribune Illustrated Supplement,* New York, NY
	11	30	6	US	“Famous Actor Who Delights the Matinee Girls in Japan”, *The San Francisco Call,* S. F., CA
1902	1	9	6	US	“Japan’s Greatest Actor and Customs of Stage”, *Evening Bulletin,* Honolulu, HI
	2	20	459-460	US	“Art and Nature of Japan”, *Independent,* New York
	3	30	26	US	“Japan’s Leading Actor”, *The Sun,* New York, NY
	5	3	7	US	“Japan’s Leading Actor”, *Lexington Intelligencer,* Lexington, MO
	5	30	2	US	“Japan’s Leading Actor”, *Hopkinsville Kentuckian,* Hopkinsville, KY
	6	3	2	US	“Japan’s Leading Actor”, *Hopkinsville Kentuckian,* Hopkinsville, KY
	9		231-237	US	Onoto Watanna, “The Japanese Drama and the Actor”, *The Critic,* NY
	10	16	4	US	“Julius Caeser in Japan”, *Pacific Commercial Advertise,* Honolulu, HI
	10	20	6	US	“Danjuro, Japan’s Greatest Actor”, *Hawaiian Star,* Honolulu, HI
1903	1		17-32	US	Mary Pierce, “Everyday Life in Japan”, *Overland Monthly,* San Francisco, CA
	2		299-310	US	Leon Mead, “Some Phases of Japanese Art”, *The Craftsman,* Eastwood, New York
	2		204-211	US	“Lafcadio Hearn The meeting of Three Ways”, *The Atlantic Monthly,* Boston
	3	28	12	UK	“A Japanese Garden”, *The Graphic,* London, England
	4	4	2	UK	“Japanese Plays”, *Sporting Times,* London, England
	10	8	2	US	＊”News in Brief”, *Daily Pioneer,* Bemidji, MN 訃報
	10	15	5	US	“Japan’s Great Actor Dead”, *Hawaiian Star,* Honolulu, HI 訃報
	10	15	1	US	＊”From Other Shores”, *Williston Graphic,* Williston, ND 訃報
	10	16	6	US	“Japan’s Great Actor Dead”, *Hawaiian Star,* Honolulu, HI 訃報
	10	17	6	US	“From Other Shores”, *The Washburn Leader,* Washburn, ND 訃報
	11	3	5	UK	*The Aberdeen Daily Journal, Aberdeenshire,* Scotland 訃報
	11	7	8,9	US	“A Japanese Actor”, *Goodwin’s Weekly,* Salt Lake City, UT　訃報
	11	9	9	UK	“In Short”, *St. James’s Gazette,* London, England　訃報
	11	13	5	UK	“London Correspondent”, *Irish Times,* Dublin, Republic of Ireland　訃報
	11	19	12	UK	“Japan’s Greatest Actor”, *The Daily News,* London, England　訃報
	12	1	8	UK	“Japanese Fairy Tales”, *The Morning Post,* London, England
	12	19	14	UK	“A Japanese Actor”, *The Preston Herald,* Lancashire, England 訃報
	12	28	5	US	“Inland”, *Indiana Tribune* (独語紙)、Indianapolis, IN
1904	2	28	10	US	“Yankee Nabobs of Cathay”, *The Omaha Daily Bee,* Omaha, NE
	3	19	2	UK	“Behind the Scenes”, *Brighton Gazette,* East Sussex, England
	5	11	8	UK	“Heredity on the Stage”, *The Evening Telegraph,* Angus, Scotland
	7	17	19	US	“With the Planer and Music Fair”, *The San Francisco Call,* San Francisco, CA
	7		167-170	US	“Theatres and Theatre-going in Japan”, *The Theatre,* New York
	8	24	30	UK	“The Forbes Robertsonn and the Beerbohm Tree of Japan”, *The Tatler,* London, England
	8		519-600	US	Anna C. Hartshorne, “Reading Journey through Japan”, *The Chautauquan,* New York
	9	24	12	UK	“Japanese Criticism”, *The Daily News,* London, England
	10	10	8	US	“Oriental Actors of Note”, *The Daily Morning Journal and Courier,* New Haven, CT
	10	23	33	US	“Stage Setting a Fair Garden”, *The San Francisco Call,* San Francisco, CA
	10	29	8	US	“The Theaters and the Stage People of Japan”, *The Commonwealth,* Greenwood, MS
	10		144-147	UK	Yone Noguchi, “the Evolution of the Japanese Stage”, *New England Magazine,* Boston, MA
1905	4	5	4	US	＊”Facts about Japan”, *The Cairo Bulletin*、Cairo, IL　偉大
	4	7	2	US	＊”Fact about Japan”, *Mount Vernon Signal,* Mt. Vernon, KY 偉大
	4	24	8	US	＊”Number of Facts about Japan”, *The Omaha Bee,* Omaha, NE　偉大
	5	12	1	US	＊”Strange People”, *Washington Standard, Olympia,* WA　偉大
	5	19	7	US	＊ *Black Hills Union and Western Stock Review,* Rapid City, SD　偉大
	5		230-237		Yone Noguchi, “Shakespeare in Japan” *The Critic,* New York
	6	10	904	US	“Esthetic Point of View of the Japanese Nation”, *Public Opinion,* Washington DC
	6	14	7	US	＊ *Fulton County News,* McConnellsburg, PA　偉大
	6	15	4	US	＊ *Catoctin Clarion,* Mechanicstown, MD 偉大
	6	15	7	US	＊ *Bamberg Herald,* Bamberg, SC　偉大
	6	15	3	US	＊”Notes from Japan”, *The Pacific Commercial Advertiser, Honolulu,* HI　偉大
	6	15	5	US	＊ *The Port Gibson Reveille,* Port Gibson, MS. 偉大
	6	16	7	US	＊”Notes from Japan”, *Hawaiian Gazette* Honolulu, HI　偉大
	6	21	7	US	＊ *Fulton County News,* McConnellsburg,　偉大
	6	21	4	US	＊ *The Daily Ardmoreite,* Ardmore, OK 偉大
	6	22	4	US	＊ *Catoctin Clarion,* Mechanicstown, MD 偉大
	6	22	7	US	＊ Bamberg Herald, Bamberg, SC　偉大
	6	28	2	US	＊”Thirty-two Facts about Japan”, *News and Herald,* Winnsboro, SC　偉大
	6	29	2	US	＊”Thirty-two Facts about Japan”, *County Record Volume,* Kingstree, SC　偉大
	6	30	3	US	＊”Notes from Japan”, *Middlebury Register,* Middlebury, VT 偉大
	6		804-813	US	Walter M. Cabot, “Some aspects of Japanese, *Atlantic Monthly,* Boston, MA
	7	6	7	US	＊ *The New Enterprise,* Madison, FL 偉大
	7	15	3	US	＊ *The Sea Coast Echo,* Bay Saint Louis, MS　偉大
	7	20	2	US	＊ *Bamberg Herald*、 Bamberg, SC　偉大
	7	22	4	US	＊ *St. Mary Banner,* Franklin, Franklin, LA　偉大

	7	29	3	US	＊ *Opelousas Carrier,* Opelousas, LA 偉大
	8	12	2	US	＊ *Opelousas Carrier,* Opelousas, LA 偉大
	8	19	2	US	＊ *The SeaCoast Echo,* Bay Saint Louis, MS 偉大
	8	24	7	US	＊ *New Enterprise,* Madison, FL　偉大
	9	7	2	UK	"Hara Kiri", *The Sporting Times,* London, England
	9	28	1	US	＊ *The Comet, Jonson City,*　TN 偉大
	10	8	5,6,13	US	＊"Drama in Japan", *Evening Star,* Washington DC
	10	8	5,6, 13	US	＊"Drama in Japan", *New York Tribune Sunday Magaine,* New York, NY
	10	26	2	US	＊ *Goldsboro Weekly Argus Volume,* Goldsboro, NC　偉大
	11	1	4	UK	"The Clubman", *The Sketch,* London, England
	11	3	5	UK	＊"Drama in Japan", *The Devon and Exeter Gazette,* Devon, England
	11	4	10	UK	＊"Visit to a Japanese Theater", *Manchester Courier,* Greater Manchester, England
1906	1	21	SM5	US	"The Japanese Stage in war time and after", *New York Times,* New York, NY
	1	22	4	UK	＊"The Japanese Stage", *The Times,* London, England
	1		124-134	UK	"The Tragedy of Kesa Gozen", *The Nineteenth Century and After,* London
	4	1	23	US	"With the Player and the Music Folk", *The San Francisco Call,* San Francisco, CA
	6	4	4	US	"Japan's Stage idol", *The Cairo Bulletin,* Cairo, IL
	7	12	4	US	"Japan's Stage Idol", *Belding Banner,* Belding, MI
	9	1	14	UK	"Theatrical Gossip", *The Era,* London, England
	9	16	6	US	"Actors Wives in Japan", *The Sun,* New York, NY
	10	3	2	US	"Japan's Stage Idol", *Logan Republican,* Logan, UT
			95-102	UK	＊ Alfred Bates, "The Dramatist Genichiro and the Actor Danjiro", *The Drama,* London, England
1907	9	28	6	UK	"Plays of the Week", *The Sphere,* London, England
	9		250-252	US	"To Adopt Western Methods on Japan's Stage", *The Theatre,* New York
	12	21	12	UK	"Japanese Actors", *The Era,* London, England
			650-670	US	Eliza Scidmore "Koyasan, the Japanese Valhalla", *The National Geographic Magazine,* Washington DC
1908	1	9	42-43	US	"Drama Japan's New National Theatre", *The Nation,* New York
	4	10	7	US	＊"In a Japanese Theater", *Virginia Enterprise,* Virginia, MN
	4	17	7	US	"The Theater in Japan", *The Salt Lake Tribune,* Salt Lake City, UT
	4	17	7	US	"The teater in Japan", *Washington Herald,* Washington DC
	4	17	6	US	"The Theater in Japan", *The Times-Dispatch,* Richmond, VA
	4	17	4	US	"Of Worldwide Interest: the Theater in Japan", *Los Angeles Herald,* Los Angeles, CA
	4	23	3	US	＊"In a Japanese Theater", *Baxter Spring News,* Baxter Springs, KS
	4	25	6	US	＊"In a Japanese Theater", *St. Tammany Farmer,* Convington, LA
	5	4	2	US	"Theaters and Drama of Japan", *The Pacific Commercial Advertiser,* Honolulu, HI
	5	7	6	US	＊"In a Japanese Theater", *Columbus Commercial,* Columbus, MS
	5	8	3	US	"Theaters and Drama of Japan", *Hawaiian Gazette,* Honolulu, HI
	6	18	3	US	"In a Japanese Theater", *Crittenden Record,* Marion, KY
	9		881-883	US	Anne Heard Dyer, "Japanese Towels as Decoration", *Harper's Bazaar,* New York, NY
1909	5	28	2	US	"Adopting Our Methods", *The Paducah Evening Sun,* Paducah, KY
	10	3	6	US	"The Theater in Japan", *The Sun,* New York, NY
	10		830-832	US	"Shakespeare in Japan", *The Green Book Album,* Chicago, IL
	11	27	2	UK	＊"An Old Scrap Book", *Sporting Times,* London, England
1910	3		251-260	US	Setsu Koizumi, "Mrs. Lafcadio Hearn's Reminisceneces", *The Pacific Monthly,* Portland
	7	19	56	UK	"The Japanese Drama", *The Times, London, England*
1911	11	20	9	US	＊"The Kingdom of Slender Swords", *The Bridgeport Evening Farmer,* Bridgeport, CT
1912	6		724-734	US	Sadakichi Hartman, "Japanese Drama", *The Forum,* New York
1913	5	15	3	UK	＊""P.M.G" Special", *Pall Mall Gazette,* London, England
	5	16	5	UK	＊"Typhoon", *Pall Mall Gazette,* London, England
	6	14	22	UK	＊"My Impressions of Japanese Theatrical Art", *The Sphere,* London, England
	8		813	US	"The Stage", *Munsey's Magazine,* New York
	9	6	10	US	"The Unemployed in Japan", *The Bridgeport Evening Farmer,* Bridgeport, CT
1916	7		22-73	US	Charles K. Field, "A Japanese Idol on the American Screen", *Sunset,* San Francisco
	11		568-581	US	"The Popular Drama in Japan II", *The Drama,* Chicago, IL
1919	7	13	10	US	"Motion Pictures in Mikado's Land", *Great Falls Daily Tribune,* Great Falls, MT
	11	29	22	UK	"As They Do It in Japan", *The Illustrated London News,* London, England
1921	10	31	10	UK	"Bean Soup", *The Illustrated London News,* London, England
	12	23	4	UK	"The Theater in Japan", *The Yorkshire Post,* West Yorkshire, England
	7		590-597	US	Brown, L.F., "A Summer Pilgrimate to Sacred Koya-san", *Asia and the Americas,* Orange, CT
1922	1	3	8	UK	"Japan's Despised Theatre", *The Times,* London, England
1930	5	17	18	UK	"The Land of the Risigin – Foot light", *The Sphere,* London, England
1932	5	21	18	UK	"Ainleys and Robeys of Japan", *The Illustrated London News,* London, England
	5	21	20	UK	"The Hereditary Actors of Japan", *The Illustrated London News,* London, England

表 2　書籍

年	頁	
1881	216	Edward H. House, *Japanese Episodes*, Boston
1882	439-440	William Gray Dixon, The *Land of the Morning*, Edinburgh
1889	176-	Hon. Lewis Wingfield, *Wanderings of a Globe-Trotter in the Far East vol.2*, London
	101-110	Eliza Ruhamah Scidmore, *Jinrikisha Days in Japan*, New York
1890	253	Basil Hall Chamberlain, *Things Japanese*, London
1891	247	Sir Edwin Arnold, *Seas and Lands*, New York
1892	121-122	Sir Edwin Arnold, *Japonica*, New York
	201-236	Henry Norman, *Real Japan*, London
1893	122-125	E.A. Gordon, *Clear Round!*, London
1894	205-214	Clement Scott, Pictures of the World, London
	418	*Appletons' Annual Cyclopaedia and Register of Important Events of the Year 1893*, New York
	202-213	Douglas Brooke Sheelton Sladen, *The Japs at Home*, London
	406	H. D. Traill, *The Capitals of the World*, New York
	212	Louise Jordan Miln, *When We Were Strolling Players in the East*, London
	187-189	Katarine Schuyler Baxter, *In Bamboo Lands*, New York
1896	542-547	William Eleroy Curtis, *The Yankees of the East*, New York
	139-146	Major Willoughby Verner, *The Rifle Brigade Chronicle for 1895*, London
	212-220	Roger Riordan and Tozo Takayanagi, *Sunrise Stories*, New York
1897	289	Adolf Fischer, *Bilder aus Japan*, Berlin
1898	70-77	Henry Coleman May, *Nippon; A Story of Japan*, New York
	326	Basil Hall Chamberlain, *A Handbook for Travellers in Japan*, New York
1899	189	Mrs. Campbell-Praed, *Madame Izān*, London
	115-122	Captain S.C.F. Jackson, *A Jaunt in Japan*, Calcutta
	86-98	Stafford Ransome, *Japan in Transition*, London
	240	*The International Cyclopedia*, New York (Japan の項)
	346-362	Mrs. Hugh Fraser, *Letters from Japan: A Record of Modern Life in the Island Empire*, London
1900	173-181	Clarence Ludlow Brownell, *Tales from Tokio*, New York
	286	Stephenn Bonsal, *The Golden Horseshoe*, New York
1901	3月27日	Mortimer Menpes, *Japan: A Record in Colour*, London
	61-97	Osman Edwards, *Japanese Plays and Playfellows*, New York
1902	301-302	Mortimer Menpes, *World Pictures*, London
	229-246	Anna C. Hartshornoe, *Japan and Her People* vol.II, Philadelphia
1903	141-150	Clarence Ludlow Brownell, *The Heart of Japan*, New York
		Felix Regamey, "La musique et la danse", *Le Japon en images* vol.2, Paris
	288-298	Walter Del Mar, *Around the World Through Japan*, London
1904	192-213	Douglas Sladen, *Queer Things about Japan*, London
	60	Ella M. Hart Bennett, *An English Girl in Japan*, London
	127-135	Geo H. Rittner, *Impressions of Japan*, New York
	277	Reginald J. Farrer, *The Garden of Asia*, London
	119-122	Captain F. Brinkley, *Japan, Its History, Arts and Literature vol.VI*, London
	463-464	Edgar M. Condit, *Two Years in Three Continents*, Chicago
1905	204	W.G. Aston, *Shinto, the Way of the Gods*, London
1906	49-50	Paul Elmer More, *Shelburne Essays*, New York
	714	William Elliot Griffis, *The Mikado's Empire vol.2* 9th edition, New York
1908	128-139	Marshall P. Wilder, *Smiling 'round the World*, New York
	339-364	Augusta M. Campbell Davidson, *Present Day Japan*, New York
	270-271	Burton Holmes, *Burton HolmesTravelogues vol.10*, New York
	274-275	Ceeleste J. Miller, *The Newest Way Round the World*, New York
1909	386-391	Count Shigenobu Okuma, *Fifty Years of New Japan*, New York
	231	Arthur Lloyd, *Every-day Japan*, London
1910	312	Hellie Erminie Rives, *The Kingdom of Slender Swords*, Indianapolis
	175-176	George Trumbull Ladd, *Rare Days in Japan*, London
1911	73-78	*The Stage Year Book 1911*, London
	164-171	Joseph Longford, *Japan of Japanese*, New York
	810	Walter Mason Cabot, *The Place of Beauty in American Life*, New York
	318-319	Paul S. Reinsch, *Intellectual and Political Currents in the Far East*, Boston
1912	76-77	Baroness Albert d'Anethan, *Fourteen Years of Diplomatic Life in Japan*, London
1913	52-53	Yoshio Markno, *Recollections and Reflections of a Japanese Artist*, Philadelphia
1914	245-273	Isabel Anderson, *The Spell of Japan*, Boston
1915	536-547	Robert Porter, *Japan, The New World-Power*, London
	67-92	Yone Noguchi, *The Spirit of Japanese Art*, London
1916	147	Allan McLane Hamilton, *Recollections of an Alienist*, New York
1918	48	Ernest Fenollosa and Ezra Pound, *'Noh' or Accomplishment*, New York
1920	409-421	Sydney Greenbie, *Japan, Real and Imaginary*, New York
1926	488	"Danjuro", *The New International Encyclopaedia vol. VI*, Boston
1930	259-260	Erwin, Bälz Toku Bälz, *Das Leben eines deutschen Arztes im erwchenden Japan*, Stuttgart
1945	78	F.M. Huntington-Willson, *Memoirs of an Ex-Diplomat*, Boston
1953	18-19	Marlatt Charles Lester, *An Entomolotist's Quest the Diary of a Trip around the World 1901-1902*, Washington